

広汎性発達障害をもつ青少年による深刻な司法事例にみられる 精神医学的特徴に関する調査

十一元三(京都大学医学部保健学科)

1. 緒言

筆者は、これまで広汎性発達障害をもつ青少年による司法事例約 50 例について調査を行った結果、深刻な司法事例では「高次対人状況型」という独自の発生基盤が多いことが明らかになった(十一、2004)。高次対人状況では、対人関係上の混乱や困惑がきっかけとなって社会的問題行動に発展した場合を指し、事件化に至る重要な背景をなすと考えられた。

少年の非行、成人による犯罪を問わず、その発生は単一の原因によることは稀であり、複合的な要素(リスクファクター)の重なりから成り立つことはこれまで指摘されてきた。その場合、すべてではなくとも、一部のリスクファクターを特定し、それを解消することにより、最終的な事件化(事件発生)を予防することはある程度可能ではないかと推測される。

広汎性発達障害における臨床的問題(十一、2005)の4つの分類(「基本障害」、「早期関連症状」、「二次災害型問題」、「後期合併症」)のうち、対人的不適応にともなって現れやすい後期合併症、なかでも被害関係念慮が司法事例においても出現しやすいこと(十一・崎濱、2002)に注目し、深刻な司法事例について事件発生前の状況について調べた。

2. 方法

高機能広汎性発達障害の司法事例のうち、社会的に報道された「高次対人状況型」の事例について信頼できる情報を司法関係者、法務省関係者、警察関係者、精神鑑定に関与した精神科医等より集め、被害関係念慮の存在について検討した。

(発生年、事件当時の加害者の年齢、事件)

- | | | |
|------------|------|--------------|
| 事件 1, 1999 | 29 歳 | ハイジャック機長殺害事件 |
| 事件 2, 2000 | 17 歳 | 主婦殺害事件 |
| 事件 3, 2001 | 29 歳 | 女子大学生通り魔殺害事件 |
| 事件 4, 2003 | 12 歳 | 幼児誘拐殺害事件 |
| 事件 5, 2004 | 11 歳 | 同級生殺害事件 |
| 事件 6, 2004 | 15 歳 | 同級生母親殺害事件 |
| 事件 7, 2005 | 17 歳 | 小学校侵入教諭殺傷事件 |

3. 結果

対象となった7事例のうち、明らかな被害関係念慮がみられたのは5例（事件1・3・4・5・6）におよんだ。すなわち、事件発生に先行して、对人的に過敏性、緊張度を増す状態に陥っていることが示唆された。

（例：事件7）

中学2年時より不登校となるが、その頃には同級生や通行人等が“自分を睨んだ”、“あざ笑った”、“脅している”と感じる状態が出現している。この状態は少年自身を苦しめたと同時に、時として被害関係念慮の相手に対する報復の意図を生じさせることがあった。事件そのものは、被害者への被害関係念慮にもとづく行動ではないが、事件前より少年が不適応と被害的思考を呈していた点は、事件化への背景要因をなすと考えられる。

4. 考察

本研究が対象とした社会的事件7ケース中5例において、事件発生に先立ち被害関係念慮がみられたという結果から、高次対人状況により既に社会不適応に陥っていたのに加え、事件発生時点では対人過敏性および対人相互性の問題がさらに増強した状態にあったことが示唆された。

司法事例に限らず、広汎性発達障害の青少年の抱える中心的問題は対人性の領域で生じやすいことは繰り返し報告されてきた。知的発達の良好な高機能者の場合でも、複雑化する人間関係に困惑したり、疎外感を感じて疲弊しやすい青年期前後には、高次対人状況型の混乱が生じやすい。その状況下で後期合併症の1つである被害関係念慮を持つと、社会的問題行動が発生しやすくなることは充分予想される。また、被害関係念慮を合併することにより、早期関連症状であるパニックに陥った際の行動が、他者への加害性を帯びやすくなる可能性も考えられる。

早期からの支援が実現していないケースでも、被害関係念慮に注目することにより、事件化に対する予防および支援開始の契機とすることは有用であると考えられた。

発達を見据えた長期的適応支援には直ちにつながらなくとも、事件化という不幸な事態を未然に防ぐにあたり、（潜在的）不適応の兆候として被害関係念慮は非常に重要な指標であると考えられた。さらに、精神医学的兆候を見出す前提として、正確な診断がなされることが不可欠であるため、青少年を見守る学校保健に対して、児童精神医学の専門医が関与する機会が増えることが望ましく、少なくとも精神科医の間で発達障害に関する認識が広まる必要があると考えられる。

参考文献

十一元三, 崎濱盛三: アスペルガー障害の司法事例－性非行の形式と動因の分析－. 精神神経学雑誌 104; 561～584、2002.

十一元三: アスペルガー障害と社会行動上の問題. 精神科治療学 19; 1109～1114、2004.

十一元三: 高機能自閉症、アスペルガー症候群. 医療 若子理恵・土橋圭子 (編): 自閉症スペクトラムの医療・療育・教育. p p.141～155、金芳堂、東京、2005.